

## シラバス

指定番号 272

商号又は名称: 有限会社 エムワン

科目番号・科目名	1, 職務の理解(6時間)			
指導目標	研修に先立ち、これからの介護を目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形でそのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学 習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスの理解	2	2		<講義の内容> ・多様なサービスと介護職の仕事 ・キャリアパスの資格取得要件 ・介護と介護保険サービスの内容
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	4	4		<講義の内容> ・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ (視聴覚教材の活用、現場職員の体験談) ・ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト 第1分冊 第1章 (財)介護労働安定センター発行 プロジェクター
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

# シラバス

指定番号 272

商号又は名称: 有限会社 エムワン

科目番号・科目名	2、介護における尊厳の保持・自立支援(9時間)			
指導目標	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	3.5	1	2.5	〈通信学習課題の内容〉 ・介護分野におけるICF ・QOLの考え方 ・ノーマライゼーション ・虐待防止・身体拘束禁止 ・個人の権利を守る制度の概要  〈講義の内容〉 ・人権の尊厳と保持 人権擁護の点も踏まえながら、事例を通してどのようなケアが不適切な介護や虐待なのか、またどのような行為が利用者の権利を害するのかを検討することで介護、支援のあり方を考える。
② 自立に向けた介護	3.5	1	2.5	〈通信学習課題の内容〉 ・自立支援 自立支援のための介護方法・残存能力の活用 ・介護予防  〈講義の内容〉 ・「自立」と「自律」 ・動機の欲求 ・意欲を高める支援
③ 人権啓発に係る基礎知識	2	2		〈講義の内容〉 ・人権について ・人権への取組み ・身近な人権のこと
(合計時間数)	9	4	5	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト 第1分冊 第2章 (財)介護労働安全センター発行 プロジェクター
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 272

商号又は名称: 有限会社 エムワン

科目番号・科目名	3 介護の基本(6時間)			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。</li> <li>・介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。</li> </ul>			
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等(別紙でも可)
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	0.5	1.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>〈講義の内容〉</li> <li>・介護の専門性</li> <li>・利用者主体の支援姿勢 自立した生活を支えるための援助</li> <li>・介護環境の特徴の理解</li> <li>・訪問介護と施設介護サービスの違い</li> <li>・利用者主体の支援姿勢</li> <li>・自立した生活を支えるための援助</li> <li>・事業所内のチーム・多職種から成るチーム</li> <li>・医療行為と医療的ケア</li> </ul>
② 介護職の職業倫理	1	0.5	0.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>〈通信学習課題の内容〉</li> <li>・専門職の倫理の意義</li> <li>・介護の倫理(介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等)</li> <li>〈講義の内容〉</li> <li>・介護職としての社会的責任</li> <li>・法令遵守</li> <li>・プライバシーの保護・尊重</li> </ul>
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>〈通信学習課題の内容〉</li> <li>・感染対策</li> <li>〈講義の内容〉</li> <li>・介護における安全の確保</li> <li>・事故予防、安全対策</li> <li>〈演習実施方法〉</li> <li>リスクマネジメントについて、グループディスカッションを行う</li> </ul>
④ 介護職の安全	1	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>〈講義の内容〉</li> <li>・介護職の健康管理が介護の質に影響</li> <li>・ストレスマネジメント</li> <li>・腰痛の予防に関する知識</li> <li>・感染予防対策</li> </ul>
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト 第1分冊 第3章 (財)介護労働安定センター発行 プロジェクター 模造紙 サインペン
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。

- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

(別添2-2)

令和4年7月19日現在

## シラバス

指定番号 272

商号又は名称: 有限会社 エムワン

科目番号・科目名	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携(9時間)			
指導目標	介護保険制度や障がい者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学 習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護保健制度	3	0.5	2.5	〈通信学習課題の内容〉 ・介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ・仕組みの基礎的理解 ・医療保険制度の概要 ・介護保険制度の概要  〈講義の内容〉 ・制度を支える財源、組織、団体の機能と役割
② 医療との連携とリハビリテーション	3	0.5	2.5	〈通信学習課題の内容〉 ・高齢者の服薬と留意点 ・経管栄養 吸引 吸入 浣腸 ・健康チェック  〈講義の内容〉 ・リハビリテーション医療の意義と役割 ・リハビリテーション医療の過程
③ 障がい者総合支援制度およびその他制度	3	0.5	2.5	〈通信学習課題の内容〉 ・障がい者福祉制度の理念 ・障がい者総合支援制度の仕組みの基礎的理解 ・介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで ・個人の権利を守る制度の概要  〈講義の内容〉 ・成年後見制度
(合計時間数)	9	1.5	7.5	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト 第2分冊 第4章 (財)介護労働安全センター発行 プロジェクター
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 272

商号又は名称: 有限会社 エムワン

科目番号・科目名	5 介護におけるコミュニケーション技術(6時間)			
指導目標	高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学 習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護におけるコミュニケーション	3	1.5	1.5	<p>〈通信学習課題の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割</li> <li>・相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮・傾聴・共感の応答</li> <li>・コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション</li> </ul> <p>〈講義の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語的コミュニケーションの特徴 非言語コミュニケーションの特徴</li> <li>・利用者・家族とのコミュニケーションの実際</li> <li>・利用者の思いを把握する</li> <li>・利用者の感情に共感する</li> <li>・家族の心理的理解</li> <li>・家族へのいたわりと励まし</li> <li>・信頼関係の形成</li> <li>・認知症に応じたコミュニケーション技術</li> </ul> <p>〈演習実施方法〉</p> <p>利用者 家族 介護職に分け、ロールプレイングを行う</p>
② 介護におけるチームのコミュニケーション	3	1.5	1.5	<p>〈通信学習課題の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記録における情報の共有化</li> <li>・報告 連絡 相談の留意点</li> <li>・5W1H</li> <li>・コミュニケーションを促す環境</li> </ul> <p>〈講義の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションを促す環境</li> </ul> <p>(演習実施方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の内容をグループに分かれ、講師指導のもと、ロールプレイングする</li> </ul>
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト 第2分冊 第5章 (財)介護労働安全センター発行 プロジェクター 模造紙 サインペン
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。  
 ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。  
 ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。  
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。

※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

(別添2-2)

令和4年7月19日現在

## シラバス

指定番号 272

商号又は名称: 有限会社 エムワン

科目番号・科目名	6 老化の理解(6時間)			
指導目標	・加齢、老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 老化に伴うこととからだの変化と日常	3	1.5	1.5	〈通信学習課題の内容〉 ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 加齢と老化の概念 ・心身の機能の変化と日常生活への影響 防御反応(反射)の変化 喪失体験  (講義の内容) ・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 身体的機能の変化と日常生活への影響 咀嚼機能の低下 筋・骨・関節の変化 体温維持機能の変化 精神的機能の変化と日常生活への影響
② 高齢者と健康	3	1.5	1.5	〈通信学習課題の内容〉 ・高齢者の疾病と生活上の留意点 骨・筋肉系疾患 廃用性症候群 ・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点  (講義の内容) ・高齢者の疾病と生活上の留意点 循環器障害(脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患)の危険因子と対策 老年期うつ病症状 誤嚥性肺炎 症状の小さな変化に気づく視点 高齢者と感染症
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト 第3分冊 第7章 (財)介護労働安全センター発行 プロジェクター
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 272

商号又は名称: 有限会社 エムワン

科目番号・科目名	7 認知症の理解(6時間)			
指導目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学 習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 認知症を取り巻く状況	1	0.5	0.5	〈通信学習課題の内容〉 ・認知症ケアの理念 パーソンセンタードケア  〈講義の内容〉 ・認知症ケアの理念 ・認知症ケアの視点(できることに着目する)
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	1	1	〈通信学習課題の内容〉 ・認知症の概念と原因疾患と病態 ・認知症の中核症状 認知症の原因疾患と診断 ・認知症と間違えられやすい症状  (講義の内容) ・認知症の概念と原因疾患と病態 ・認知症の治療 ・認知症についての最近の話題 ・健康管理の方法
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	1	1	〈通信学習課題の内容〉 ・認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ・認知症の行動・心理症状(BPSD) ・不適切なケア ・生活環境による改善  (講義の内容) ・認知症の利用者への対応 ・認知症の進行に合わせたケア  〈演習実施内容〉 ・認知症のある利用者とはケアする側に分かれ、心理状況に合わせた援助方法を講師指導のもと、ロールプレイングを行う
④ 家族への支援	1	0.5	0.5	〈通信学習課題の内容〉 ・認知症の受容過程での援助 ・介護負担の軽減(レスパイトケア)  (講義の内容) ・家族の心理・介護負担への理解と支援の方法
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト 第3分冊 第7章 (財)介護労働安全センター発行 プロジェクター 模造紙 サインペン
------------	--

※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。

- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。



# シラバス

指定番号 272

商号又は名称: 有限会社 エムワン

科目番号・科目名	8 障害の理解(3時間)			
指導目標	障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等(別紙でも可)
① 障がいの基礎的理解	1	0.5	0.5	<通信学習課題の内容> ・障害者福祉と基本理念 ・障害の概念とICF  <講義の内容> ・障害者福祉の基本理念 ノーマライゼーションの概念
② 障がい医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1.5	0.5	1	<通信学習課題の内容> ・身体障害 視覚障害 聴覚 平衡障害 音声、言語、咀嚼障害 肢体不自由 内部障害 ・知的障害 ・精神障害(高次脳機能障害、発達障害含む) 統合失調症・気分障害・依存症などの精神疾患 広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害  <講義の内容> ・肢体不自由 ・精神障害 ・高次機能障害
③ 家族の心理・かかわり支援の理解	0.5	0.5		<講義の内容> ・介護する家族の遭遇するストレス ・障害の理解と受容支援 ・家族負担の軽減
(合計時間数)	3	1.5	1.5	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト 第3分冊 第8章 (財)介護労働安全センター発行 プロジェクター
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。

## シラバス

指定番号 272

商号又は名称: 有限会社 エムワン

科目番号・科目名	9 こころとからだのしくみと生活支援技術(75時間)			
指導目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部介助または全介助が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学 習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
ア 基本知識の学習 ① 介護の基本的な考え方	2.5	1	1.5	〈通信学習課題の内容〉 ・理論に基づく介護 ・法的根拠に基づく介護  〈講義の内容〉 ・理論に基づいた介護 ・法的根拠に基づく介護
ア 基本知識の学習 ② 介護に関するこころのしくみと基礎的理解	5	1	4	〈通信学習課題の内容〉 ・学習と記憶の基礎知識 ・感情と意欲の基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ・こころの持ち方が行動に与える影響 ・からだの状態がこころに与える影響  (講義の内容) ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因
ア 基本知識の学習 ③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	5	1	4	〈通信学習課題の内容〉 ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨・関節・筋肉に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 ・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識  (講義の内容) ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨・関節・筋肉に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 ・こころとからだを一体的に捉える ・利用者の様子の普段との違いに気づく視点
イ 生活支援技術の講義と演習 ④ 生活と家事	6	6		〈講義の内容〉 ・家事と生活の理解 ・家事援助に関する基礎知識と生活支援 生活歴 自立支援 ・予防的な対応 ・主体性・能動性を引き出す ・多様な生活習慣 価値観  (演習実施方法) ・講義内容について、グループに分かれ、講師指導のもと、生活支援に関するロールプレイングを行う

<p>イ 生活支援技術の講義と演習</p> <p>⑤ 快適な居住環境整備と介護</p>	6	6	<p>〈講義の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・快適な居住環境に関する基礎知識</li> <li>・高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法</li> <li>・家庭内に多い事故</li> <li>・バリアフリー 住宅改修</li> <li>・福祉用具貸与</li> </ul> <p>〈演習実施方法〉</p> <p>講義内容を講師指導のもと、福祉用具の利用方法などロールプレイングで行う</p>
<p>イ 生活支援技術の講義と演習</p> <p>⑥ 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	6	6	<p>〈講義の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整容に関する基礎知識</li> <li>・整容の支援技術</li> <li>・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱</li> <li>・身支度</li> <li>・整容行動</li> <li>・洗面の意義・効果</li> </ul> <p>〈演習実施方法〉</p> <p>上記の講義内容のうち、整容の支援技術 身体状況に合わせた衣類の選択 着脱の方法をグループに分かれてロールプレイングで行う。</p>
<p>イ 生活支援技術の講義と演習</p> <p>⑦ 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	6	6	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動・移乗に関する基礎知識やさまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法</li> <li>・利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法や移動と社会参加の留意点と支援</li> <li>・利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法</li> <li>・利用者の自然な動きの活用</li> <li>・残存能力の活用・自立支援</li> <li>・重心・重力の働きの理解</li> <li>・ボディメカニクスの基本原理</li> <li>・移乗介助の具体的な方法 移動介助</li> <li>・褥瘡予防</li> </ul> <p>〈演習実施方法〉</p> <p>上記、講義内容についてグループに分かれ、車いす等の移乗等のロールプレイングを行う。</p>
<p>イ 生活支援技術の講義と演習</p> <p>⑧ 食事に関連したところとからだの仕組みと自立に向けた介護</p>	6	6	<p>〈講義の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法および食事と社会参加の留意点と支援</li> <li>・食事形態とからだのしくみ</li> <li>・楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</li> <li>・食事摂取の意味</li> <li>・食事のケアに対する介護者の意識</li> <li>・低栄養の弊害 脱水の弊害</li> <li>・食事と姿勢 咀嚼・嚥下のメカニズム</li> <li>・食事の環境整備</li> <li>・食事に関する福祉用具の活用と介助方法</li> <li>・口腔ケアの定義</li> <li>・誤嚥性肺炎の予防</li> </ul> <p>〈演習実施方法〉</p> <p>上記、講義内容について、グループに分かれ食事介助をロールプレイングで行う。</p>
<p>イ 生活支援技術の講義と演習</p> <p>⑨ 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	6	6	<p>〈講義の内〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴と清潔保持に関する基礎知識</li> <li>・入浴と整容の用具の活用方法</li> <li>・楽しい入浴を阻害する要因と支援の方法</li> </ul> <p>〈演習実施方法〉</p> <p>上記の講義内容について、グループに分かれ入浴介助等のロー</p>

				ルプレイングを行う。
イ 生活支援技術の講義と演習 ⑩ 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		〈講義の内容〉 ・排泄に関する基礎知識 ・排泄環境の整備と用具の活用方法 ・爽快な排泄を阻害する要因と支援方法  〈演習実施の方法〉 上記の講義内容について、グループに分かれ排泄介助のロールプレイングを行う
イ 生活支援技術の講義と演習 ⑪ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		〈講義の内容〉 ・睡眠に関する基礎知識 ・睡眠環境と用具の活用方法 ・快い睡眠を阻害する要因と支援方法  〈演習実施方法〉 上記の講義内容について、グループに分かれ体位変換等のロールプレイングを行う
イ 生活支援技術の講義と演習 ⑫ 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	4	4		〈講義の内容〉 ・終末期に関する基礎知識 ・生から死への過程と心の理解 ・苦痛の少ない死への支援と多職種との連携  〈演習実施方法〉 上記講義内容についてグループに分かれ、終末期の心理・介護に関する考え方等のディスカッションを行う
ウ 生活支援技術演習 ⑬ 介護過程の基礎的理解	6.5	4	2.5	(通信学習課題の内容) ・介護過程の基礎的理解 科学的思考と介護過程 介護過程の展開に必要な構成要素  (講義の内容9) ・介護過程の基礎的理解 介護過程に必要な構成要素  (演習実施方法) 上記の講義内容についてグループに分かれ、複数の事例を活用してグループディスカッションを行う
ウ 生活支援技術演習 ⑭ 総合生活支援技術演習	4	4		(講義の内容) ・総合生活支援技術演習 事例の提示(認知症と片麻痺) ところとからだの力が発揮できない要因分析 適切な支援技術の検討 支援技術の演習 支援技術の課題 を順に 2 時間程度で検討を進める。  〈演習実施方法〉 上記の講義内容について、グループに分かれグループディスカッションを行う、
(合計時間数)	75	63	12	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト 第4分冊 第9章 (財)介護労働安全センター プロシエクター 演習物品(別紙5)
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。

# シラバス

指定番号 272

商号又は名称: 有限会社 エムワン

科目番号・科目名	10 振り返り			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。</li> <li>・研修と通じて学んだこと、今後も継続して学ぶべきことを演習を通して受講者が気づき、利用者の生活を支援する介護ができる。</li> </ul>			
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等(別紙でも可)
① 振り返り	3	3		<p>〈講義の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修を通して学んだこと、今後継続して現場で学ぶべきこと、根拠に基づく介護についての要点</li> <li>・利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性。チームアプローチの重要性についてをグループワークを通じて振り返る</li> <li>・介護職としてのさまざまな働き方を現場の介護職から聞くことで、自らの働く姿をイメージし、キャリアプランにつなげる。</li> </ul>
② 就業への備えと研修修了後における実例	1	1		<p>〈講義の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的に学ぶこと</li> <li>・研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例 (Off-JT OJT)を紹介</li> </ul> <p>〈演習実施方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当グループ社員が事業所においての介護の業務に従事した体験談を語り適宜質問に答える。</li> </ul>
(合計時間数)	4	4		

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト 第1～4分冊 (財)介護労働安全センター発行 プロジェクター
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。